

(1) 学習サポート

基礎学力に不安を感じ、サポートを希望する学部生が、先輩の大学院生(サポーター)から学習支援を受ける。平成 18 年度より開始した。

□個別学習サポート

1人のサポーターが数人(原則3人)の学生を対象に、基本的に週1回90分の学習支援を行う。以下に、H21～H23年度の各学期、学年別の対象学生数と担当サポーター数の実績を示す。

		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
		対象 学生数	サポーター 数	対象 学生数	サポーター 数	対象 学生数	サポーター 数
1学期	1年生	27	9	25	9	24	9
	2年生	33	12	20	10	17	9
	3年生	115	33	101	30	73	27
	合計	175	54	146	49	114	45
2学期	1年生	15	5	5	3	9	4
	2年生	30	13	25	13	11	7
	3年生			20	6	26	10
	合計	45	18	50	20	46	21
3学期	1年生	1	1	2	1	2	1
	2年生	3	3	1	1	0	0
	3年生	2	2	2	2	0	0
	合計	6	6	5	4	2	1
1～3学期	全学年	226	78	201	73	162	67

※H21年度1学期は事業開始前。H21年度1学期、H22年度3学期対象学生3年生には4年生各1名を含む。

H23年度1学期対象学生3年生には4年生2名を含む。

※1人のサポーターが2つの学年を担当したり(「サポーター数」2)、複数のサポーターが交替で対象学生1グループを支援したりする(「サポーター数」1)場合があるため、「サポーター数」は実数(サポートに従事した院生数)と一致しないことがある。

(1) サポートの拡大実施

H21年度(事業開始後)

- ・ 1学期のみであった1年生への個別サポートを、2学期にも実施することにした。
- ・ 学習サポートのなかった3学期に個別サポートを実施することにした。

H22年度

- ・ 1学期のみであった3年生への個別サポートを、2学期にも実施することにした。

各年度1、2学期の対象学生およびサポーターの人数は、予算の範囲内で各学年・課程ごとに定員を定め、実際の選出人数による調整を行って、決定される。本事業予算による拡大実施の試みにより、それまで学習サポートのなかった学期にも、学生の側にはニーズがあることがわかった。

H24年度からは、学内予算措置による実施に戻るが、サポートの必要かつ要望のある学生に対して年間を通じてサポートが提供できるようになった現在の体制を維持することは必要であろう。平成18年度以来の実績では、年度により対象学生数に60人(サポーター数で20人)程度の幅が生じている。サポートが学生の希望に基づく以上、このような人数の変動はやむを得ないことである。しかし、限られた一定額の予算の下で現在の体制を維持するには、真に必要な学生に対する効果的なサポートがなされるよう、定員配分や対象学生選出方法について、継続的に見直していかなければならない。

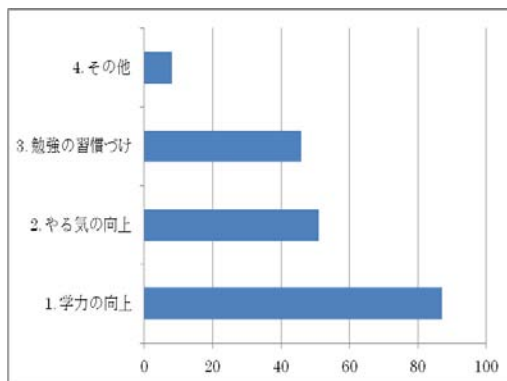
(2) サポートの効果の検証

本制度の開始以来、各学期のサポート終了時に、対象学生とサポーターにアンケートを実施してきた。本事業期間を通じて、結果の示す傾向はほぼ一定しており、両者ともにサポートの効果をおおむね高く評価している。

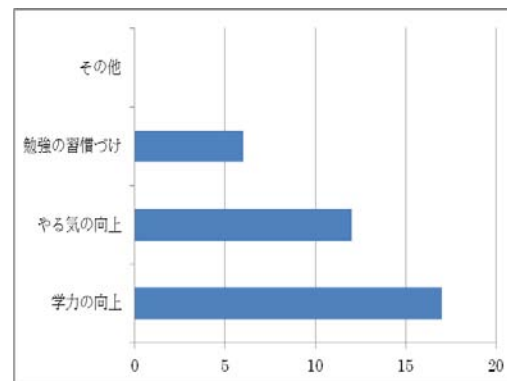
対象学生のアンケート結果について

問4 学習サポートを受けてどのような効果が得られたと思いますか？(複数選択可)

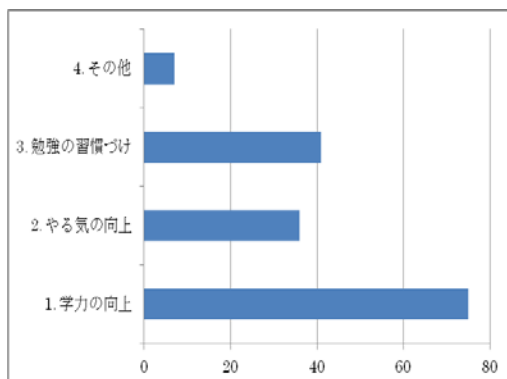
H21年度1学期(事業開始前)



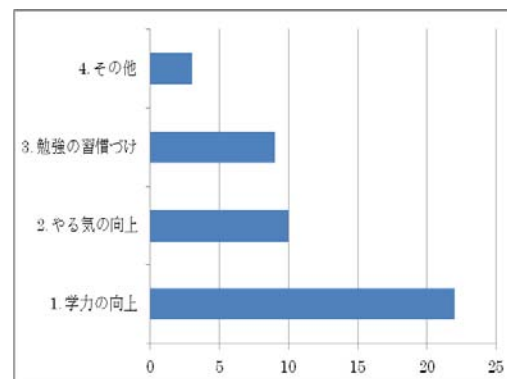
H21年度2,3学期



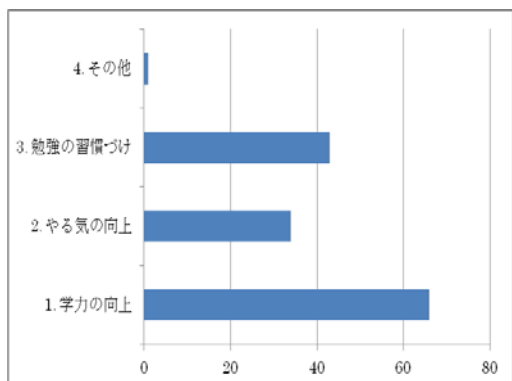
H22年度1学期



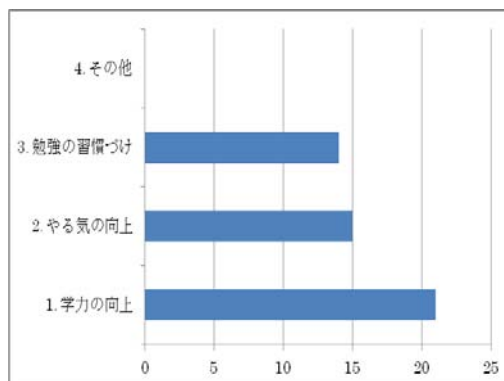
H22年度2学期



H23 年度 1 学期

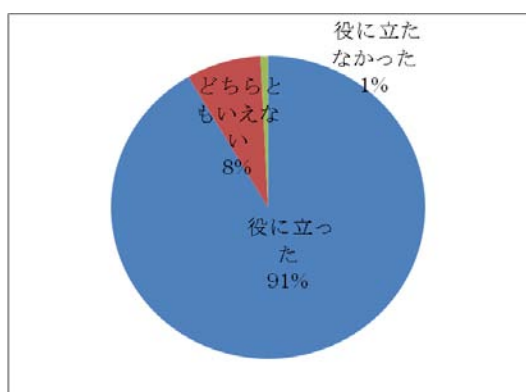


H23 年度 2 学期

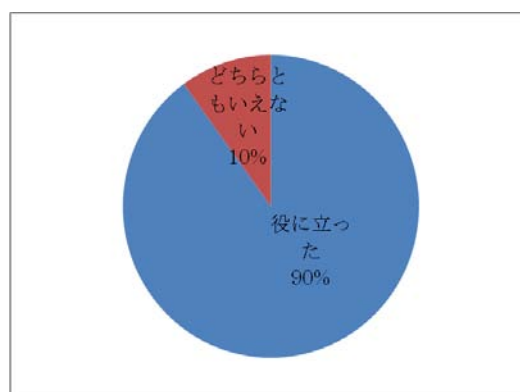


問 5 学習サポートを受けて役に立ちましたか？

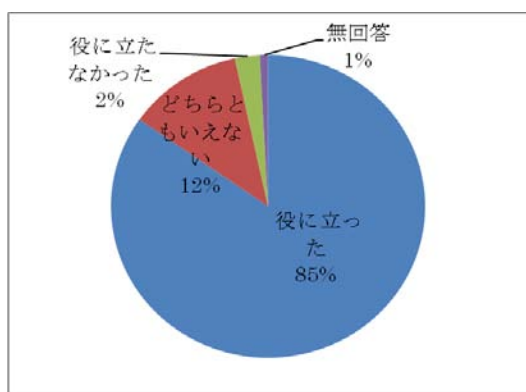
H21 年度 1 学期 (事業開始前)



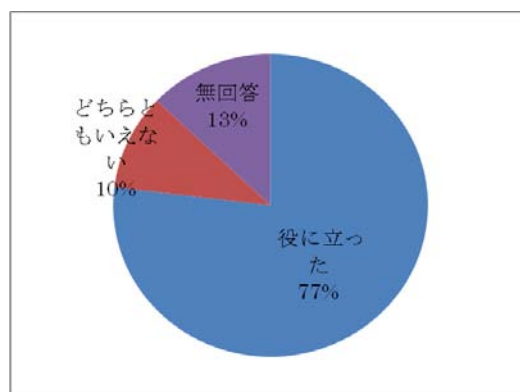
H21 年度 2,3 学期



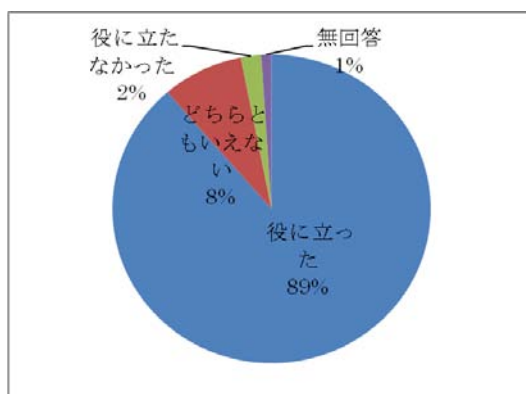
H22 年度 1 学期



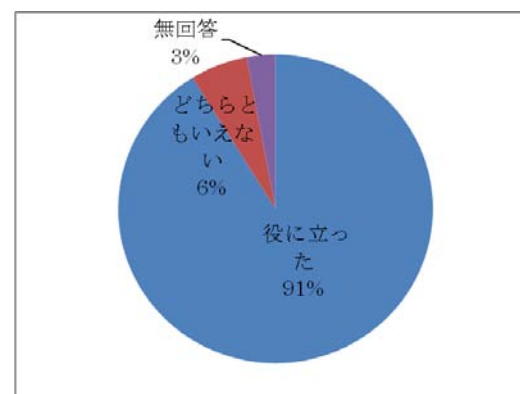
H22 年度 2 学期



H23 年度 1 学期



H23 年度 2 学期

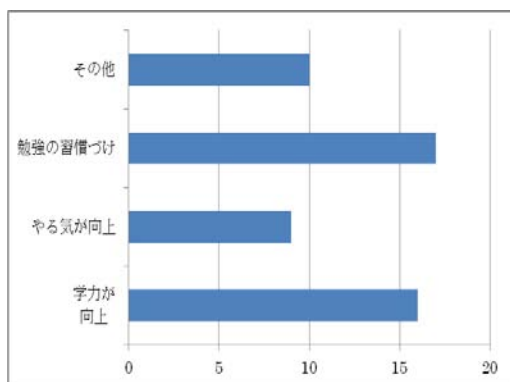


いずれの学期も多くの学生(8~9割)がサポートの効果を肯定的に評価している。また、効果の内容としてもっとも回答数の多いのが「学力の向上」であり、「やる気の向上」「勉強の習慣づけ」はほぼその半分から3分の2にとどまる。学習支援報告書を読んでいると、サポートの内容は、その時々授業の課題や宿題、テスト対策といったものが多い。そのときに「わからないこと」が「わかる」ようになるという形で学習内容の理解が進んだことが、「学力の向上」という回答に反映しているのであろう。このようなサポートはその一つ一つが学習上の「つまずき」の解決として意義のあることである。ただ、本制度の主旨は、それにとどまらない。そこから学生が学習への意欲を持ち、サポートがなくても自ら学習を進めていけるようになる、いわば「自立」支援ということもある。原則週一回の定期的なサポートを定めているのも、またサポーターの指導は「解答」を教えるのではなく、そこに至る考え方や手順・方法、さらには勉強の仕方を教えることであると定めているのもそのためである。本制度では、今後も引き続きこの趣旨を対象学生に十分理解させる必要がある。それとともに、本制度を含めた本学の学習指導において、教員側が学生一人一人をよりきめ細かく把握し、本制度以外のところでも必要な学生に適切な「自立」支援ができるようにしていくことが重要である。

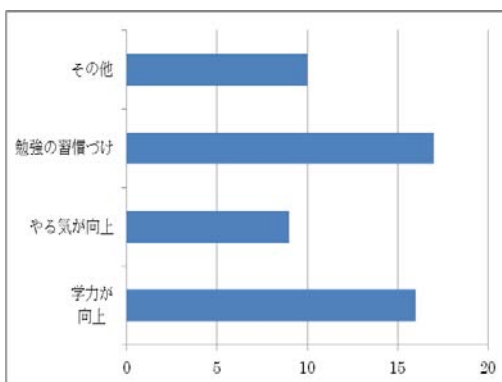
サポーターのアンケート結果について

問8 学生にとって学習サポートを受けてどのような効果が得られたと思いますか？(複数回答可)

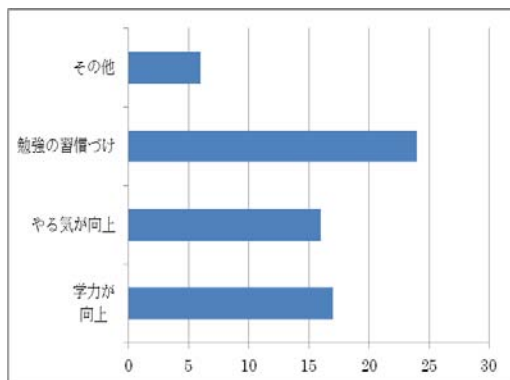
H21 年度 1 学期(事業開始前)



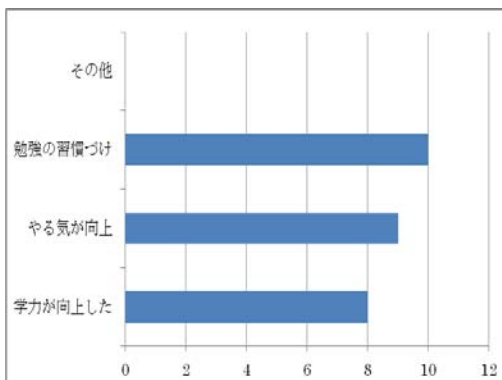
H21 年度 2,3 学期



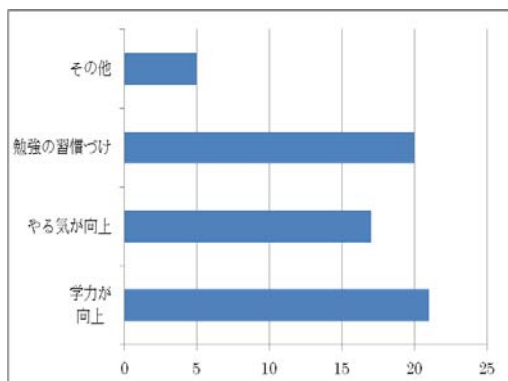
H22 年度 1 学期



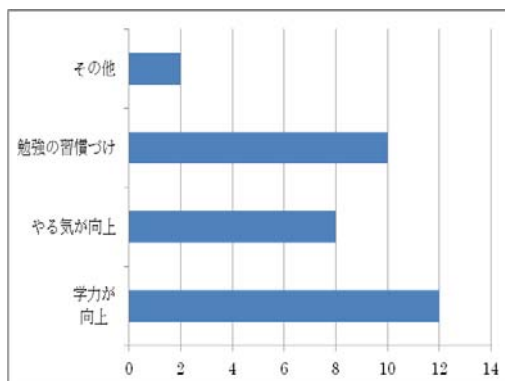
H22 年度 2 学期



H23 年度 1 学期

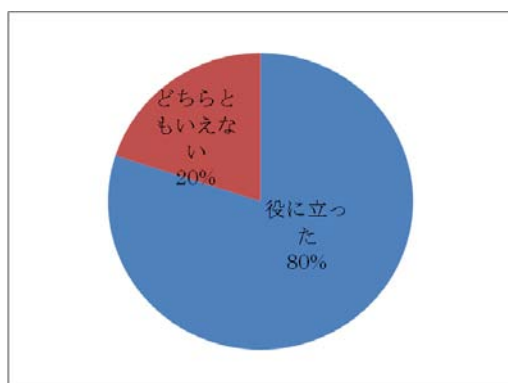


H23 年度 2 学期

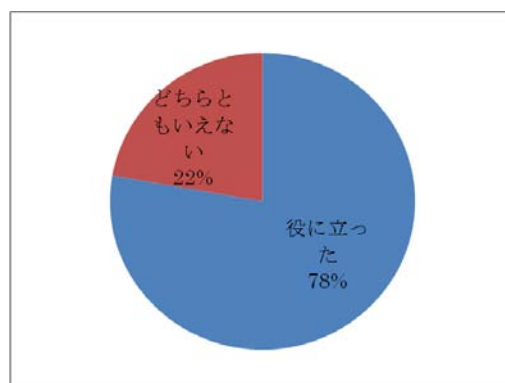


問 9 学生にとって学習サポートを受けたことは、彼ら／彼女らの役に立ったと思いますか？

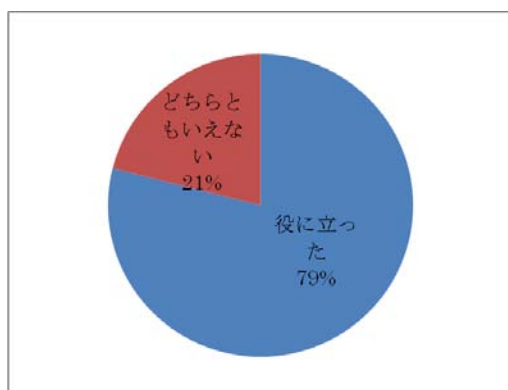
H21 年度 1 学期(事業開始前)



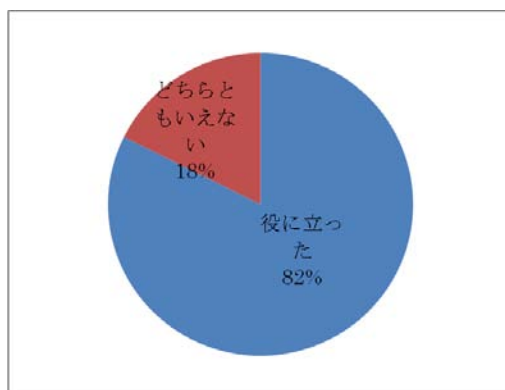
H21 年度 2,3 学期



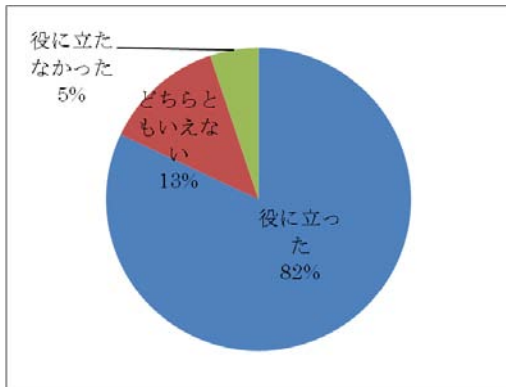
H22 年度 1 学期



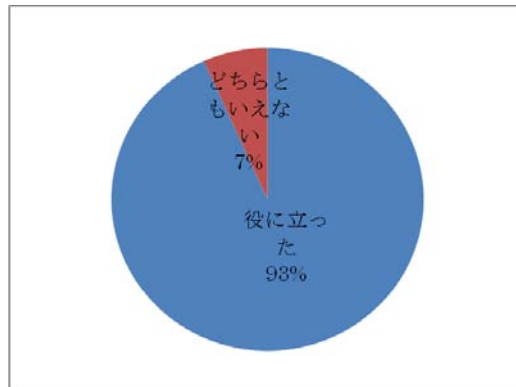
H22 年度 2 学期



H23 年度 1 学期



H23 年度 2 学期



いずれの学期も多くの院生(8~9割)がサポートの効果を肯定的に評価している。また、効果の内容として「学力の向上」と「勉強の習慣づけ」に同じくらいの回答数、あるいは後者の多くなることもある。これは、上記の「自立」支援という本制度の主旨がサポーターのところではよく理解され、サポートもそのような観点から行われていることの反映であろう。対象学生の結果と比べ、「役に立ったと思うか」の問いに「どちらともいえない」の割合が多くなっているのも、その都度の問題解決を超えた「自立」支援という目標に対しての評価と解釈してよいかもしれない。今後も、サポーターにはこのような指導姿勢を持つよう、各学期のサポーターガイダンスでの説明を行っていくことが重要である。

サポート効果の客観的な検証について

H22 年度最後の共通教育センター会合(H23.3)において、2008(H20)年度 1 年入学者を対象として検証を試みた結果を議論した。検証では、入学者全員を、学習サポートを受けた時期により 4 グループに分け、a. 3 年進級単位不足者数・不足者の割合、b. 英語プレースメントテストの平均点の推移(1 年 4 月と 12 月を比較)、の二指標を用いて分析を行った。これにより、学生に学習サポートを受けさせる時期の適切さについて考察を行い、単位不足者数・割合から見ると、①2 年から学習サポートを受け始めるのでは遅いかもしれない、②1 年 1 学期のみでその後サポートを受けていない学生に注意が必要であろう、という結論を得た。この報告および議論を通じ、学習サポートの効果は、対象学生一人一人について、他の指標(科目の成績など)も使いながら、今後より細かく見ていく必要があるということが、共通認識となった。

この議論も踏まえ、本事業期間において、学習サポートも含めた学生の学習履歴および学習支援内容のデータを整理・管理し、利用するシステムを整備した。このシステムも活用して、サポートの効果を客観的に検証していくことが今後の重要な課題となっている。

□サポートスペースでのサポート

個別サポートを受けていない学生にもサポート機会を提供するために、本事業で新たな試みとしてサポートスペースを設置した。サポーターが一定の場所に待機して、そこに来た学生の学習支

援を行う。

(1) 開設方法と利用者数

〈開設方法〉

H21年度(11月に開設)

場所:総合研究棟3階 学生自習用パソコン室

実施期間:11月4日～12月25日

開設曜日・時間・配置サポーター数:

11月 火・水・金 16:30-18:30 火3名、水4名、金3名

12月 火・水 12:00-18:00 火2時間ごと1名ずつ、水2時間ごと1名・1名・2名

金 12:00-14:00、16:00-18:00 それぞれ1名、2名

H22年度

場所:図書館3階 グループ閲覧室

実施期間:1学期 4月12日～7月22日、2学期 9月13日～12月24日

開設曜日・時間・配置サポーター数:

1学期 月・火・木 16:30-18:30 各2名

2学期 月～金 12:00-13:00 各1名

10月12日より

月 17:30-18:30 1名

火～金 16:30-18:30 各1名

H23年度

場所:総合研究棟3階 学生自習用パソコン室

実施期間:1学期 4月11日～7月29日、2学期 9月12日～1月11日

開設曜日・時間・配置サポーター数:

1学期 月・火・金 15:00-17:00、16:00-18:00 各1名

2学期 月・火 15:00-17:00、16:00-18:00 各1名

水 13:00-15:00、16:00-18:00 各1名

〈利用者数〉

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		
	対象学生数	サポーター数	対象学生数	サポーター数	対象学生数	サポーター数	Web対応件数
1学期			92	6	44	6	
2学期	45	11	48	5	24	6	62
合計	45	11	140	11	68	12	62

開設当初から、支援を受ける学生の人数が伸びなかった。そのため、開設場所、曜日・時間・配置サポーター数を学期ごとに、また実施期間中にも見直し、適切な実施方法を模索した。H22年度には、利用者が(異なり人数でも)増加したが、H23年度には減少した。この実績を踏まえて、本事業期間終了後は、規模を縮小して継続し、利用者の増加に応じて適宜規模の拡大を図る方針とした。

なお、H23年度2学期には、Webによる学習支援ができるように支援システムを整備し、「情報検索論」という授業における利用を試みた。このWeb対応機能の活用方法も今後しっかり考えてゆく必要がある。

(2) サポートの効果の検証

対象学生について

H22、23年度ともに、一度利用した学生がリピーターとなる傾向が見られ、1、2学期を通して何度か支援を受けに来る学生が現れた。「わからないことがわかりたい」という学生の要求とサポーターの指導がうまくかみ合い、学習意欲を引き出した例であろう。個別サポートと違い多様な学生がその都度の学習上の「つまずき」を解決するために利用するという想定を超えて、サポートスペースの可能性が示された。もともとサポートスペースに足を運ぶこと自体が、学生の自主性によるものであるから、このような例が今後も増えることが期待できる。

また、学生が自ら選んだテーマについて調査・発表を行う授業「情報検索論」において、サポートスペースの利用を課し、サポーターのアドバイスの有用性を学生に評価させる試みをH21より継続的に実施した。H23年度には、その自己評価と授業の成績とを用いてサポートの効果を検証した。その結果、サポーターからよくアドバイスを受けた学生の成績が良いという傾向が確認された。サポートの効果が表れたものと考えられる。同じく、Web対応による学習支援の効果も同授業におけるアンケートを用いて検証した。その結果、学生の主観では対面と同程度の効果が得られていることがわかった。(H23年度「基礎学力向上に関する研究会」永森報告)

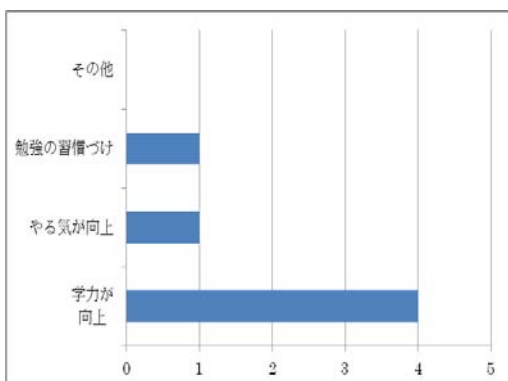
なお、学生の側のサポートの受けやすさを考え、H22年度までは、実名を原則としながら匿名でサポートを受けることも認めていた。しかし、H23年度には、学生への個別の学習支援というサポーター制度本来の主旨から、実名でサポートを受けさせるようにした。したがって、対象学生アンケートも、学生ごとの学習支援データの蓄積もできるようになった。今後この条件を生かして、「情報検索論」以外の一般の利用についても、サポートスペースの効果を検証することが課題として残されている。

サポーターのアンケート結果について

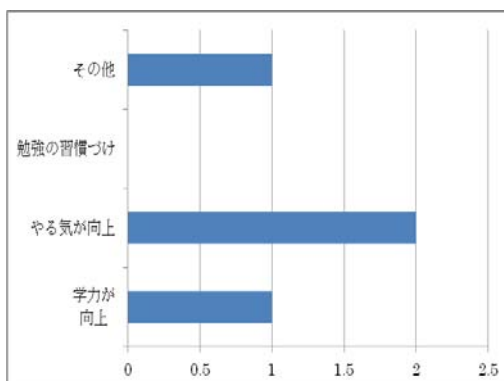
各学期のサポートスペース終了時に、サポーターにアンケートを実施した。H22年度以後は項目も整理され、各学期の比較もできるようになった。

問 6 学生にとって学習サポートを受けてどのような効果が得られたと思いますか？(複数回答可)

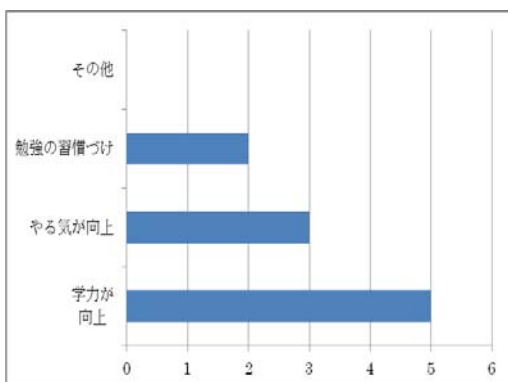
H22 年度 1 学期



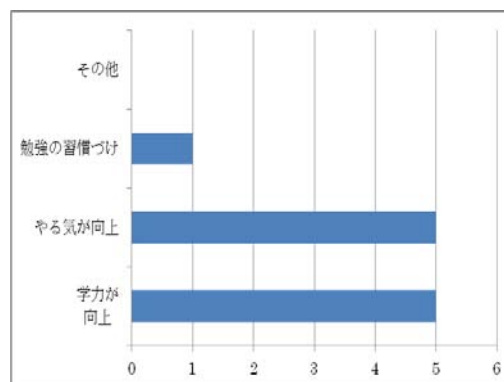
H22 年度 2 学期



H23 年度 1 学期



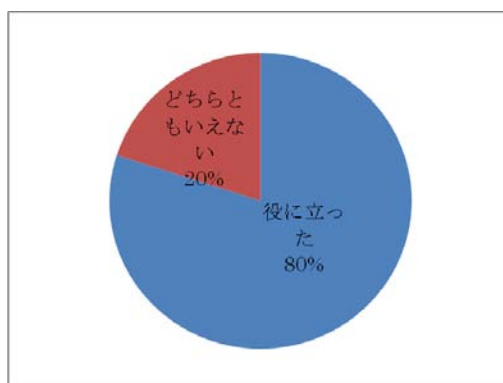
H23 年度 2 学期



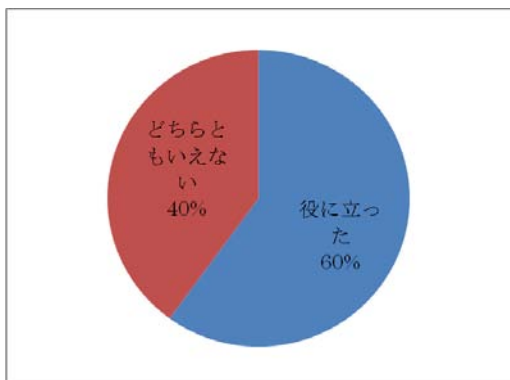
※H21 年度 2 学期は該当する項目なし。

問 7 学生にとって学習サポートを受けたことは、彼ら／彼女らの役に立ったと思いますか？

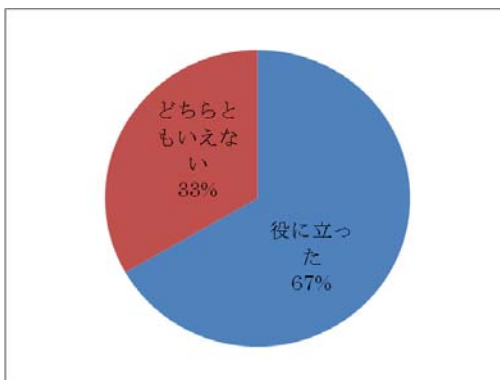
H21 年度 2 学期



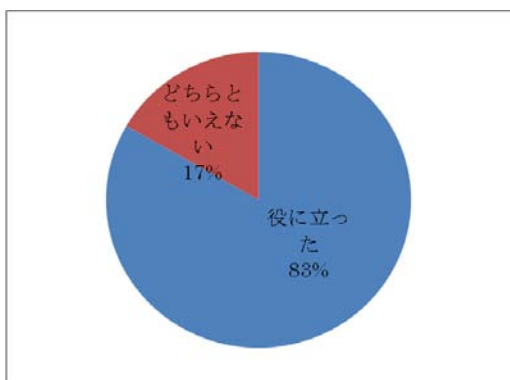
H22 年度 1 学期



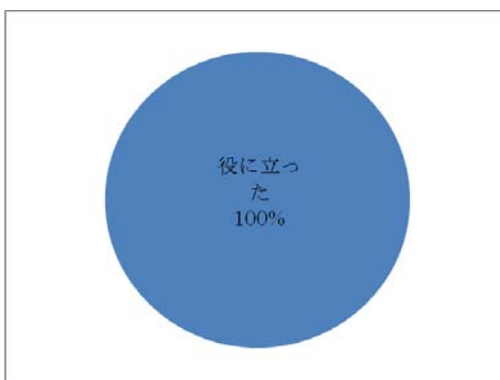
H22 年度 2 学期



H23 年度 1 学期



H23 年度 2 学期



学期ごとの肯定的評価には 6 割～10 割のばらつきが生じている。サポーターの報告書を読んでいると、学生をつまづきを上手く解決できなかったという内容が、個別サポートに比べて多く見られる。どのような学生がどのような質問をもってくるのかわからないサポートの難しさが表れている。そのようなケースが多いと、肯定的評価ができないのであろう。一方で、否定的評価がゼロなのは、サポーターが自らのサポートを全体としては否定的に見ていないということで、よい結果である。

サポートの効果としては、サポートスペースの性格上、やはり「勉強の習慣づけ」が各学期を通じて相対的に低い。「やる気の向上」が高くなる学期があるのは、利用学生にリピーターが現われたことによるものと見てよい。

以上